

付録 7. 多数件処理業務について

付録7 多数件処理業務について

多数件処理業務には、分割処理（パターン 1）、自動起動処理（パターン 2）の 2 パターンが存在するが、いずれの場合も、利用者が業務を行う際の業務コード（元業務）と異なる業務コードで子業務がシステム上は実行されることになるため、利用者側で正常に処理可能となるよう、対応が必要である。また、多数件処理業務は、他のオンライン業務全般の処理性能に影響が出ないように、一定件数を一定間隔で順次処理する仕組みを採用している。そのため、多数件処理業務が集中した場合には、起動契機の業務実施後、多数件処理業務が処理を終えるまでに時間を要する場合がある。

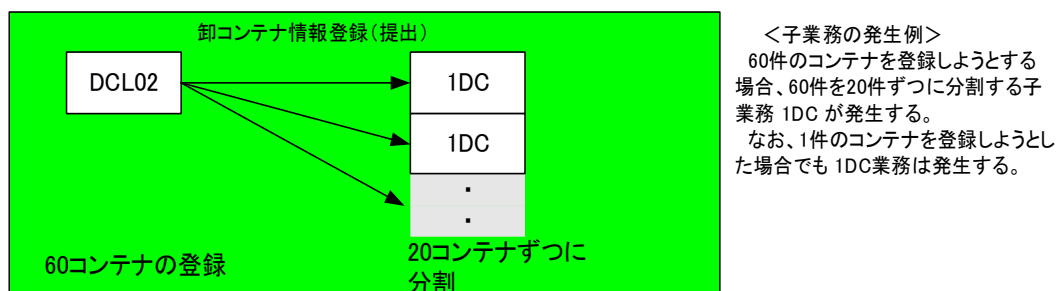
なお、ディレード方式で起動された随時系バッチ業務の完了通知も、多数件処理業務の自動起動処理（パターン 2）で実現している。

分割処理（パターン 1）、自動起動処理（パターン 2）のパターンごとに多数件処理業務の詳細について、以下に述べる。

(1) 分割処理＜パターン 1＞

1 業務により発生する処理が膨大なものになる場合、当該業務を一定の小さな処理単位に分割した子業務により処理が実行される。

（例）「4012. 卸コンテナ情報登録（提出）（DCL02）」業務を行う場合



【利用者側で注意すべき事項】

①元業務（DCL02）とは別に子業務の処理結果通知が出力され、元業務の処理結果通知の出力タイミングと子業務の処理結果通知の出力タイミングが異なる。

②業務の処理結果通知の出力共通項目中の「業務コード」には、子業務の業務コードが設定される。

→ 出力共通項目中に設定される業務コードを、受信した処理結果電文の振り分け等に利用する場合には注意が必要。

（NACCS センターが提供するパソコン用パッケージソフトを利用する場合には意識する必要はない。）

なお、子業務によって発生する処理結果通知電文、出力情報電文の出力共通項目中の入力情報特定番号には、元業務で設定した入力情報特定番号がそのまま設定されるため、対応する処理要求電文を特定することが可能である。

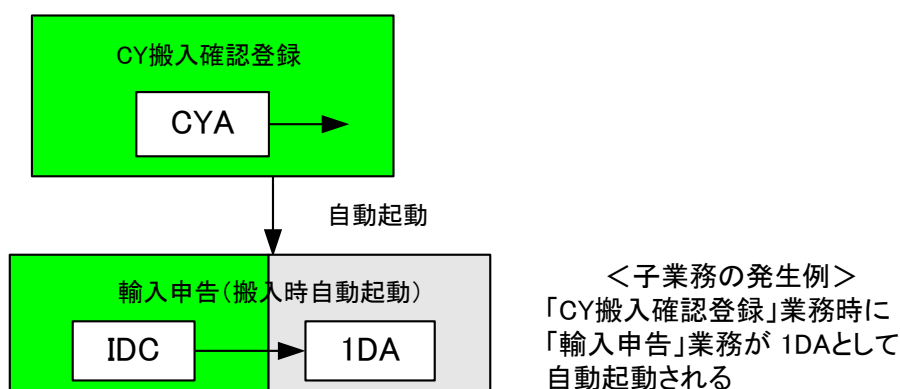
(2) 自動起動処理＜パターン 2＞

搬入時自動起動、開庁時自動起動処理が登録されている場合、搬入業務や開庁日時を契機として業務が実行される。この場合、自動起動する業務は元業務とはシステム上別の業務として処理される。

また、ある特定の情報を入力した場合に特定の業務が実行される。例えば、輸入申告業務（IDC）において、関税等納税のため納期限延長を適用する旨の入力がなされている場合、担保情報を変更するための業務（SM2）が自動的に起動し、必要な担保額が引き落とされることとなる。

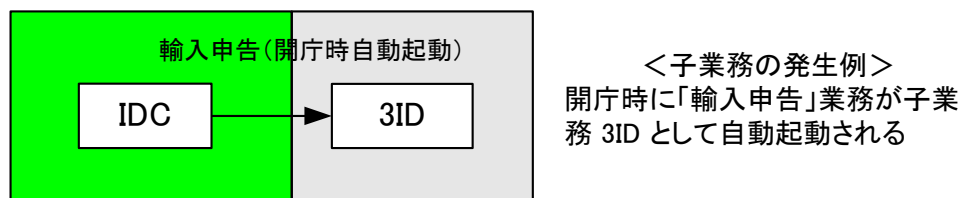
（例）「5006. 輸入申告（IDC）」業務を行う場合

a. 搬入時申告



b. 開庁時申告

(開庁時刻)



【利用者側で注意すべき事項】

①開庁時申告、搬入時申告の場合には、元業務（IDC）とは各々別の業務コードにより輸入申告業務が自動起動する。また、元業務の処理結果通知の出力タイミングと自動起動した業務の処理結果通知の出力タイミングは異なる。

②自動起動した業務の処理結果通知の出力共通項目中の「業務コード」には、元業務とは別の業務コードが設定される。

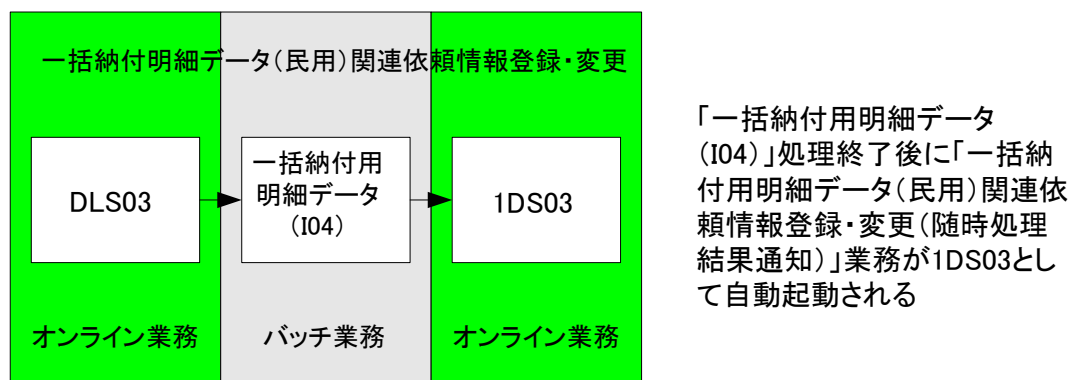
→ 出力共通項目中に設定される業務コードを、受信した処理結果電文の振り分け等を利用する場合には注意が必要。

（NACCS センターが提供するパソコン用パッケージソフトを利用する場合には意識する必要はない。）

なお、自動起動した業務によって発生する処理結果通知電文、出力情報電文の出力共通項目中の入力情報特定番号には、元業務で設定した入力情報特定番号がそのまま設定されるため、対応する処理要求電文を特定することが可能である。

随時系バッチ業務については、当該バッチ業務を処理するための依頼情報を、各随時報依頼情報登録・変更業務にてシステムに登録する。この場合、登録された内容を元に対象の随時系バッチ業務が自動起動され、バッチ業務処理終了後、完了を通知する随時処理結果通知業務がシステム上別の業務として処理される。

(例)「一括納付用明細データ」の作成を依頼する場合



【利用者側で注意すべき事項】

- ①各随時報依頼情報登録・変更業務とは別の業務コードにより随時処理結果通知業務が自動起動する。
- ②自動起動した業務の処理結果通知の出力共通項目中の「業務コード」には、各業務とは別の業務コードが設定される。

→ 出力共通項目中に設定される業務コードを、受信した処理結果電文の振り分け等に利用する場合には注意が必要。

(NACCS センターが提供するパソコン用パッケージソフトを利用する場合には意識する必要はない。)

なお、自動起動した業務によって発生する処理結果通知電文、出力情報電文の出力共通項目中の入力情報特定番号には、元業務で設定した入力情報特定番号がそのまま設定されるため、対応する処理要求電文を特定することが可能である。